

1

## 第 1 章 労働経済の推移と特徴

に転じた  
越

2

日本経済は、2011年の東日本大震災による一時的な落ち込みを乗り越えて、増勢を維持してきた。2012年年央から欧州政府債務危機に伴う世界景気の減速等により弱い動きとなったものの、2012年年末以降、内需が主導する形で景気は持ち直した。2014年には17年ぶりに消費税率引上げが行われ、引上げに伴う駆け込み需要とその反動により大きく変動したものの、足下では生産は持ち直し傾向で推移しており、企業収益も総じて改善の動きがみられる。

3

4

体

このような動きの中、雇用情勢は、完全失業率は2014年度平均で3.5%と17年ぶりの水準となり、有効求人倍率も2014年度平均で1.11倍と23年ぶりの水準となるなど、一部に厳しさがみられるものの、着実に改善が進んでおり、賃金についても春季労使交渉での賃上げの影響もあって4年ぶりに増加がみられた。一方、足下では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動からの回復の遅れや、物価の上昇テンポの鈍化といった動きもみられている。

5

本章では、2014年度における景気回復過程を中心として、雇用面の動きを概観するとともに、景気回復を着実なものとするための経済の好循環の継続に向けた課題を分析していく。

12ポ

6

体

### 第 1 節 一般経済の動向

日本経済は2008年秋のリーマンショックで急速に悪化した後、2009年初頭に底入れして持ち直しに転じ、2011年の東日本大震災による一時的な落ち込みを乗り越え、2013年に入って、消費等の内需が主導する形で、緩やかな景気回復局面となった。企業収益の拡大が賃金上昇や雇用拡大につながり、消費の拡大や投資の増加を通じて更なる企業収益の拡大に結び付くという「経済の好循環」が動き始める中、2014年4月には17年ぶりの消費税率引上げが行われ、引上げに伴う駆け込み需要とその反動により大きく変動することとなった。

7

#### 【誤りの内容】

本来は「推移」の後に校正記号が入り、「推移とともに」の文章になるのが正しいが、「推移」の前に校正記号が入っている。

10

を受けた。GDPの推

9

8

#### 1 一般経済の動向

●リーマンショックから2015年

ト 2014年度の日本経済は、  
移とともに日本経済に影響を与えた事柄についてみていこう。

体

第1- (1) -1 図では、2007年1～3月期から2015年1～3月期にかけての名目、実質GDPの推移を示している。リーマンショック前の2008年1～3月期に529.7兆円あった実質GDPは、リーマンショック後の2009年1～3月期には481.0兆円まで減少した。その後は、回復基調へと転じ、2011年3月の東日本大震災や2012年の欧州政府債務危機に伴う世界経済の減速等により弱い動きとなったものの、2013年1～3月期には実質GDPは523.8兆円まで回復した。

2014年4月には、社会保障の充実・安定化のため17年ぶりに消費税率の5%から8%への引上げが行われ、それに伴う駆け込み需要の影響もあり、実質GDPは2014年1～3月期に534.7兆円まで増加したが、2014年7～9月期にはその反動の影響もあり522.8兆円まで減少した。原油

に起きた

11